



カブトムシはどうして^{つの}角があるの、どうしてオスだけにあるの

カブトムシは^{むし}虫の^{おうさま}王様

カブトムシのオスは、^{からだ}体も大き^{おお}くりっぱな^{つの}角をもっています。カブトムシのえさは、クヌギなどの木の幹から出るあまい^きしる^{みき}（^{じゆえき}樹液）です。この^{じゆえき}樹液は、ハチやハエ、チョウやガやカナブンなどの虫たちも大好きです。そのため、^{じゆえき}樹液がにじみ出ている^{ところ}所には、さまざまな^{むし}虫があつ^{あつ}てきます。でも、^{からだ}体の大きいカブトムシは、^{じゆえき}樹液がよく出^でるいちばんいい^{ばしょ}場所に^{あつ}じんどって、おいしい^{あつ}しるをたっ^{あつ}ぷりなめます。ところが、同じカブトムシの仲間のオスが^{あらわ}現れると、そうはいきません。いい場所の^{あつ}取り合^あいになって、けんかが始まります。

^{つの}角は^{たたか}戦いの^{ぶき}武器

2ひきのカブトムシは、おたがいに^{じぶん}自分の^{つの}角を^{ひく}低くして、^{あいて}相手の^{からだ}体^{した}の下に^{さし}差し入^いれます。そして、^{つの}角をぐい^あっともち^{あいて}上げて、^{からだ}相手の^{からだ}体をは^あねと^あばそうとします。はねとばされたら^ま負けですから、おたがいにつ^{みき}めを^{あし}幹に^{あし}ひっかけ、^{あし}がっちり^{あし}足を^{あし}ふんばって、はねとばされないよう^{あし}がんばります。角は、オスどうしの^{たたか}戦いのための^{ぶき}武器なのです。

カブトムシのメスは、^{すこ}少しでも^{おお}大きくて^{つよ}強いオスと^あ出会い、^{つよ}強い^し子孫^{のこ}を残したいのです。メスを取り合^あって、カブトムシのオス^{つの}どうしが、^あ角でけんか^あすることは多いのですが、メスは^{つの}角もなく、けんかも^あしません。（監修・中山 周平）

